

出雲商工会議所管内 業種別景況（令和4年10月～12月期）

《全業種》

1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況 (％)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期(令和3年10～12月)と比べた 今期(令和4年10～12月)の状況				前期(令和4年7～9月)と比べた 今期(令和4年10～12月)の状況				今期(令和4年10～12月)と比べた 来期(令和5年1～3月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	39.3	23.0	37.7	1.6	52.5	26.2	21.3	31.1	32.8	21.3	45.9	△ 13.1
2 採算	28.8	33.9	37.3	△ 8.5	32.2	42.4	25.4	6.8	21.4	37.5	41.1	△ 19.6
3 仕入単価	78.7	19.7	1.6	77.0	60.0	40.0	0.0	60.0	55.2	43.1	1.7	53.4
4 従業員数					1.8	94.7	3.5	△ 1.8	3.4	89.7	6.9	△ 3.4
5 資金繰り					5.6	72.2	22.2	△ 16.7	9.1	65.5	25.5	△ 16.4

注) ↑ 増加・上昇・好転 — 不変 ↓ 減少・低下・悪化  
 注) D I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

今期の状況 (％)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		26.2	55.7	18.0		8.2		37.7	49.2		13.1	24.6		1.6

2、経営上の問題点 (％)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	34.4	14.8	9.8	59.0	8 設備店舗の狭小・老朽化	3.3	6.6	8.2	18.0
2 大企業進出による競争激化	1.6	3.3	1.6	6.6	9 取引条件の悪化	0.0	1.6	0.0	1.6
3 製品・商品単価の下落	0.0	1.6	3.3	4.9	10 事業資金の確保難	3.3	4.9	3.3	11.5
4 原材料高及び不足	31.1	21.3	13.1	65.6	11 需要の停滞	1.6	16.4	16.4	34.4
5 在庫製品・商品の過剰	1.6	1.6	0.0	3.3	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	1.6	1.6
6 人手不足	11.5	8.2	3.3	23.0	13 その他	6.6	1.6	0.0	8.2
7 人件費の増加	1.6	3.3	8.2	13.1	無回答	3.3	14.8	31.1	—

注) 「全体」=（1位+2位+3位を選んだ回答数）/全回答数

## 《製造業》

### 1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期(令和3年10～12月)と比べた 今期(令和4年10～12月)の状況				前期(令和4年7～9月)と比べた 今期(令和4年10～12月)の状況				今期(令和4年10～12月)と比べた 来期(令和5年1～3月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	37.5	25.0	37.5	0.0	62.5	25.0	12.5	50.0	50.0	12.5	37.5	12.5
2 採算	25.0	25.0	50.0	△ 25.0	37.5	25.0	37.5	0.0	42.9	28.6	28.6	14.3
3 仕入単価	100.0	0.0	0.0	100.0	62.5	37.5	0.0	62.5	62.5	37.5	0.0	62.5
4 従業員数					0.0	100.0	0.0	0.0	12.5	87.5	0.0	12.5
5 資金繰り					12.5	62.5	25.0	△ 12.5	28.6	71.4	0.0	28.6

注) ↑ 増加・上昇・好転    — 不変    ↓ 減少・低下・悪化

注) D I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

### 今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		25.0	75.0	0.0		25.0		37.5	37.5		25.0	12.5		0.0

### 2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	37.5	12.5	25.0	75.0	8 設備店舗の狭小・老朽化	12.5	12.5	25.0	50.0
2 大企業進出による競争激化	0.0	0.0	0.0	0.0	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	0.0	0.0	0.0	0.0
4 原材料高及び不足	25.0	50.0	0.0	75.0	11 需要の停滞	12.5	12.5	0.0	25.0
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	12.5	12.5
6 人手不足	12.5	0.0	0.0	12.5	13 その他	0.0	0.0	0.0	0.0
7 人件費の増加	0.0	0.0	25.0	25.0	無回答	0.0	12.5	12.5	—

注) 「全体」=（1位+2位+3位を選んだ回答数）/全回答数

### 3、業界内のトピック（調査対象事業所からの意見等）

- ・既存事業の需要の停滞・減少。在宅ワーカーによる、ウェブマーケティング戦略を用いた新事業展開。
- ・同業他社も材料費等仕入の値上げや、仕事の減少に苦しむ。      ・少し受注減があるように思う。
- ・鋼材の値上げが利益率に影響を及ぼしている。電気料金も約2倍。
- ・12月は観光客がまずまず良かった。ネットショップで販促し、売上の的にはコロナ前水準。

- ・値上がり分を価格転嫁できていない。大手のような複数回の値上げは難しい。
- ・人手不足。電気料金の値上がり。
- ・昨年春に続いて値上げを計画中。
- ・社員の資格取得を奨励。

## 《建設業》

### 1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況 (前年同期と前期との比較)								II 来期の見通し			
	前年同期(令和3年10~12月)と比べた 今期(令和4年10~12月)の状況				前期(令和4年7~9月)と比べた 今期(令和4年10~12月)の状況				今期(令和4年10~12月)と比べた 来期(令和5年1~3月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	25.0	25.0	50.0	△ 25.0	25.0	12.5	62.5	△ 37.5	37.5	12.5	50.0	△ 12.5
2 採算	42.9	42.9	14.3	28.6	14.3	57.1	28.6	△ 14.3	28.6	57.1	14.3	14.3
3 仕入単価	87.5	12.5	0.0	87.5	75.0	25.0	0.0	75.0	75.0	25.0	0.0	75.0
4 従業員数	/	/	/	/	0.0	87.5	12.5	△ 12.5	0.0	75.0	25.0	△ 25.0
5 資金繰り	/	/	/	/	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	71.4	28.6	△ 28.6

注) ↑ 増加・上昇・好転    — 不変    ↓ 減少・低下・悪化  
 注) D I (業況判断指数) とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

### 今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		25.0	62.5	12.5		12.5		75.0	25.0		0.0	75.0		0.0

### 2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	12.5	0.0	12.5	25.0	8 設備店舗の狭小・老朽化	0.0	0.0	0.0	0.0
2 大企業進出による競争激化	0.0	12.5	0.0	12.5	9 取引条件の悪化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	0.0	0.0	10 事業資金の確保難	12.5	0.0	0.0	12.5
4 原材料高及び不足	37.5	12.5	25.0	75.0	11 需要の停滞	0.0	12.5	0.0	12.5
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	0.0	0.0
6 人手不足	25.0	37.5	0.0	62.5	13 その他	12.5	0.0	0.0	12.5
7 人件費の増加	0.0	0.0	12.5	12.5	無回答	0.0	25.0	50.0	—

注) 「全体」= (1位+2位+3位を選んだ回答数) / 全回答数

### 3、業界内のトピック (調査対象事業所からの意見等)

- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・資材の高騰が収まらず景気に影響。職人不足で仕事が思うように進まない状況が続く。</li> <li>・働き方改革を実践する為に、効率UPと代休・有給休暇の取得に力を入れていく。</li> <li>・高齢化による退職者に対して採用が追いつかず雇用の確保が大きな課題。</li> <li>・従業員の高齢化に変わる若手人材不足。</li> <li>・若手社員の雇用。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・物価のみ高騰し労務単価は上がらない。</li> <li>・電気代の約2倍に増加。</li> <li>・ガソリン代高騰が経費増の一因。</li> <li>・適切な価格転嫁。</li> <li>・工事単価の減少。</li> </ul> |
|--|---|

# 《卸 ・ 小 売 業》

## 1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況 (前年同期と前期との比較)								II 来期の見通し			
	前年同期(令和3年10~12月)と比べた 今期(令和4年10~12月)の状況				前期(令和4年7~9月)と比べた 今期(令和4年10~12月)の状況				今期(令和4年10~12月)と比べた 来期(令和5年1~3月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売 上 高	52.6	15.8	31.6	21.1	68.4	21.1	10.5	57.9	31.6	21.1	47.4	△ 15.8
2 採 算	27.8	33.3	38.9	△ 11.1	50.0	33.3	16.7	33.3	17.6	47.1	35.3	△ 17.6
3 仕 入 単 価	73.7	21.1	5.3	68.4	52.6	47.4	0.0	52.6	47.1	47.1	5.9	41.2
4 従 業 員 数					0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	94.4	5.6	△ 5.6
5 資 金 繰 り					0.0	70.6	29.4	△ 29.4	11.8	76.5	11.8	0.0

注) ↑ 増加・上昇・好転    — 不変    ↓ 減少・低下・悪化

注) D I (業況判断指数)とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

### 今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		31.6	52.6	15.8		15.8		26.3	57.9		15.8	10.5		0.0

## 2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売 上 ・ 受 注 の 減 少	26.3	5.3	15.8	47.4	8 設 備 店 舗 の 狭 小 ・ 老 朽 化	5.3	10.5	0.0	15.8
2 大 企 業 進 出 に よ る 競 争 激 化	0.0	0.0	5.3	5.3	9 取 引 条 件 の 悪 化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製 品 ・ 商 品 単 価 の 下 落	0.0	5.3	0.0	5.3	10 事 業 資 金 の 確 保 難	5.3	5.3	5.3	15.8
4 原 材 料 高 及 び 不 足	36.8	15.8	5.3	57.9	11 需 要 の 停 滞	0.0	21.1	21.1	42.1
5 在 庫 製 品 ・ 商 品 の 過 剰	5.3	5.3	0.0	10.5	12 円 相 場 に 伴 う 経 営 へ の 影 響	0.0	0.0	0.0	0.0
6 人 手 不 足	5.3	10.5	10.5	26.3	13 そ の 他	10.5	0.0	0.0	10.5
7 人 件 費 の 増 加	5.3	10.5	10.5	26.3	無 回 答	0.0	10.5	26.3	—

注) 「全体」= (1位+2位+3位を選んだ回答数) / 全回答数

## 3、業界内のトピック (調査対象事業所からの意見等)

- |   |  |   |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・大手企業の入札参加種目の増加。</li> <li>・労働安全装備の多様化。</li> <li>・価格の高止まりに留意。</li> <li>・コロナ影響なし。物価高騰の影響大。</li> <li>・コロナの影響よりも物価高騰による買い控えの方が今後心配。</li> <li>・材料価格が高騰で、販売価格の見直しを検討中。</li> <li>・エネルギー価格高騰。特に電気代が大幅に増加。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・物価高対策が課題。</li> <li>・値上がりによる採算性の悪化。</li> <li>・価格改定による値上げが必要。</li> <li>・原材料価格高騰で、売価を1~2割値上げ。</li> <li>・原材料の高騰により仕入高が続く。</li> <li>・仕入価格・人件費上昇の価格転嫁額とタイミング。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響は薄れているが物価高で収益を圧縮。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・最低賃金の上昇による負担増。</li> <li>・品不足。特に、バター、生クリームなど政府要請で業者支給を抑制。</li> <li>・鳥インフルの影響で卵が値上がり。</li> <li>・電気料金の上昇による、省エネタイプ (利益の高い商品) が昨年より多く売れる。</li> <li>・配達等人員不足。</li> <li>・高齢世帯が多く、売上は高額だが数量は減少傾向。</li> <li>・電話による営業活動の増加による売上向上。</li> <li>・インターネットの広告を増やしていきたい。</li> </ul> |
|---|--|---|

## 《サービス業》

### 1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況（前年同期と前期との比較）								II 来期の見通し			
	前年同期（令和3年10～12月）と比べた 今期（令和4年10～12月）の状況				前期（令和4年7～9月）と比べた 今期（令和4年10～12月）の状況				今期（令和4年10～12月）と比べた 来期（令和5年1～3月）の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売上高	21.4	28.6	50.0	△ 28.6	42.9	28.6	28.6	14.3	28.6	35.7	35.7	△ 7.1
2 採算	21.4	42.9	35.7	△ 14.3	14.3	57.1	28.6	△ 14.3	14.3	42.9	42.9	△ 28.6
3 仕入単価	57.1	42.9	0.0	57.1	46.2	53.8	0.0	46.2	50.0	50.0	0.0	50.0
4 従業員数					0.0	92.3	7.7	△ 7.7	0.0	92.9	7.1	△ 7.1
5 資金繰り					7.7	69.2	23.1	△ 15.4	0.0	64.3	35.7	△ 35.7

注) ↑ 増加・上昇・好転    — 不変    ↓ 減少・低下・悪化

注) D I（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス（Diffusion Index）の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

### 今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		7.1	64.3	28.6		-21.4		28.6	57.1		14.3	14.3		7.7

### 2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売上・受注の減少	57.1	14.3	0.0	71.4	8 設備店舗の狭小・老朽化	0.0	0.0	0.0	0.0
2 大企業進出による競争激化	7.1	7.1	0.0	14.3	9 取引条件の悪化	0.0	7.1	0.0	7.1
3 製品・商品単価の下落	0.0	0.0	7.1	7.1	10 事業資金の確保難	0.0	7.1	7.1	14.3
4 原材料高及び不足	0.0	21.4	21.4	42.9	11 需要の停滞	0.0	14.3	21.4	35.7
5 在庫製品・商品の過剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円相場に伴う経営への影響	0.0	0.0	0.0	0.0
6 人手不足	14.3	0.0	0.0	14.3	13 その他	7.1	7.1	0.0	14.3
7 人件費の増加	0.0	0.0	0.0	0.0	無回答	14.3	21.4	42.9	—

注) 「全体」=（1位+2位+3位を選んだ回答数）/全回答数

### 3、業界内のトピック（調査対象事業所からの意見等）

- ・コロナで休店。売上大幅減少。
- ・コロナ感染でのキャンセルはある。
- ・10月、11月客数減少。値上げが食品などで多く節約する人増加が原因と推測。
- ・需要の減少。既存のお客様維持に注力。
- ・従業員退職による人手不足。
- ・営業社員募集するが確保できない。
- ・仕入・電気代等の値上がりに伴い、1月から100～500円値上げ。
- ・多くが値上げ。お客様も受け入れている感じがある。
- ・円安による仕入価格高騰に伴う、商品の大幅値上が限界。
- ・電気代の高騰。
- ・光熱費の高騰が一番の悩み。
- ・サイコロきっぷで関西圏のお客様が増加。観光に力を入れた市や県の政策を行って欲しい。
- ・コロナによるネット購入の加速で、競争が（大型店との）激化。
- ・物価高騰による他社との競争激化。
- ・貸切りタイプの宿泊施設が増加。競争激化。
- ・SNSを活用した営業。
- ・コロナで展示会（体験）を開催できない。

# 《 飲 食 業 》

## 1、売上・採算・仕入単価・雇用状況・資金繰り等の状況

(%)

	I 今期の状況 (前年同期と前期との比較)								II 来期の見通し			
	前年同期(令和3年10~12月)と比べた 今期(令和4年10~12月)の状況				前期(令和4年7~9月)と比べた 今期(令和4年10~12月)の状況				今期(令和4年10~12月)と比べた 来期(令和5年1~3月)の見通し			
	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I	↑	—	↓	D・I
1 売 上 高	50.0	25.0	25.0	25.0	50.0	41.7	8.3	41.7	25.0	16.7	58.3	△ 33.3
2 採 算	33.3	25.0	41.7	△ 8.3	33.3	41.7	25.0	8.3	18.2	9.1	72.7	△ 54.5
3 仕 入 単 価	91.7	8.3	0.0	91.7	75.0	25.0	0.0	75.0	54.5	45.5	0.0	54.5
4 従 業 員 数	/	/	/	/	10.0	90.0	0.0	10.0	10.0	90.0	0.0	10.0
5 資 金 繰 り	/	/	/	/	11.1	66.7	22.2	△ 11.1	10.0	40.0	50.0	△ 40.0

注) ↑ 増加・上昇・過剰・好転    — 不変    ↓ 減少・低下・不足・悪化

注) D I (業況判断指数) とは、ディフュージョン・インデックス (Diffusion Index) の略で、「増加・上昇・好転」したなどとする企業割合から、「減少・低下・悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

### 今期の状況

(%)

業況	良い	ふつう	悪い	D・I	採算	黒字	収支トントン	赤字	D・I	雇用	過剰	適当	不足	D・I
		41.7	33.3	25.0		16.7		41.7	50.0		8.3	33.3		0.0

## 2、経営上の問題点

(%)

経営上の問題点	1位	2位	3位	全体	経営上の問題点	1位	2位	3位	全体
1 売 上 ・ 受 注 の 減 少	33.3	41.7	0.0	75.0	8 設 備 店 舗 の 狭 小 ・ 老 朽 化	0.0	8.3	25.0	33.3
2 大 企 業 進 出 に よ る 競 争 激 化	0.0	0.0	0.0	0.0	9 取 引 条 件 の 悪 化	0.0	0.0	0.0	0.0
3 製 品 ・ 商 品 単 価 の 下 落	0.0	0.0	8.3	8.3	10 事 業 資 金 の 確 保 難	0.0	8.3	0.0	8.3
4 原 材 料 高 及 び 不 足	58.3	16.7	16.7	91.7	11 需 要 の 停 滞	0.0	16.7	25.0	41.7
5 在 庫 製 品 ・ 商 品 の 過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	12 円 相 場 に 伴 う 経 営 へ の 影 響	0.0	0.0	0.0	0.0
6 人 手 不 足	8.3	0.0	0.0	8.3	13 そ の 他	0.0	0.0	0.0	0.0
7 人 件 費 の 増 加	0.0	0.0	0.0	0.0	無 回 答	0.0	8.3	25.0	—

注) 「全体」 = (1位 + 2位 + 3位を選んだ回答数) / 全回答数

## 3、業界内のトピック (調査対象事業所からの意見等)

- ・ 原材料の値上げが1番痛い。
- ・ 電気料金の高騰が不安。
- ・ 物価高騰は仕方ないと諦めの気持ち。
- ・ ワイン、チーズ、サーモン等の食材費高騰、輸送コスト高騰、鳥インフルエンザの影響で仕入に影響 (加工鶏肉)。
- ・ 一部価格転嫁のメニューあり (秋~)
- ・ コロナ収束後も物価高、景気悪化により今後売上が見込めない不安と返済が始まる不安。
- ・ すべてにおいて個人で対応できない環境要因が多く、今後不安を感じる。
- ・ 出雲でもコロナ感染者拡大で来客数が減少。先行きが見えない。
- ・ 外出不いことへの慣れ！に一番困っている状態。
- ・ コロナが長引き、客足は伸びない。
- ・ コロナ前に比べて景況感は戻っていない。
- ・ コロナの影響大。売上げ・人流も戻らないなか、物価高騰は来期に大きな影響を及ぼす。
- ・ 12月は久々に売上増。
- ・ 仕入を抑える工夫とお客様の増加のアイデアが課題。